

名古屋大学附属図書館支援事業 重点プロジェクト第2弾

木曾三川の歴史を未来へ



名古屋大学初の重要文化財 「高木家文書」保存・活用のため ご支援をお願いいたします

資料の修復



資料のデジタル化



保存環境の改善



詳細は附属図書館支援事業のホームページをご覧ください

<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/kikin/index.html>



木曾三川の歴史を未来へ

「高木家文書」保存・活用プロジェクト



プロジェクト概要

図書館の予算削減に伴い、古文書の保存・活用・整理事業に必要な財源を確保するのが非常に難しい状況です。貴重な資料を守るために、皆様のご支援が必要です。

1. 資料の修復

所蔵している資料の一部は虫喰いなどによる損傷がひどく、修理をしないと利用できない状況にあります。資料を修理することによって、閲覧可能となり、資料から新しい歴史的事実も読み取れるようになります。

2. 資料のデジタル化

資料一点一点のデジタル画像を作成することによって、実物にかわって閲覧できるようになります。本物を利用することも大切ですが、デジタル画像を作成することでたくさんの方が資料を劣化させずに読めるようになり、資料の利用と保存のバランスをとることができるようになります。

また、インターネット上で公開しているデータベース「高木家文書デジタルライブラリー」にデジタル画像を登録することで、検索結果からそのまま本文画像にアクセスできるようになります。

3. 保存環境の改善

重要文化財の指定に伴い、「高木家文書」の保存環境の改善が求められています。資料を保護するための帙（ちつ）という入れ物の作成や、収蔵庫等の設備改修が必要です。

プロジェクトの進捗は
Facebookでも公開中！



名大図書館 Facebook



「高木家文書」とは？

高木家文書は、美濃國石津郡時・多良両郷内（現在の岐阜県大垣市上石津地域）を知行地とした旧旗本交代寄合、西高木家の旧蔵文書群で、約10万点が名古屋大学附属図書館に伝わっています。

多くの旗本文書が幕府瓦解により散逸した中で、傑出した規模と内容を有する文書群として知られています。中でも、全国的にもまれな治水関係資料が1万5千点以上も伝来しており、その資料的価値は高く評価されてきました。

令和元年には「交代寄合西高木家関係資料」の名称で、国の重要文化財に指定されました。

高木家文書デジタルライブラリー

https://libdb.nul.nagoya-u.ac.jp/infolib/met_a_pub/G0000011Takagi



OKB高木家文書資料館 VR展示

<https://www.nul.Nagoya-u.ac.jp/event/index.html#vr>



当プロジェクトは名古屋大学附属図書館支援事業の一環として実施しています。重点事業のほか、皆さまからの寄付金は、以下の4つの用途で大切に活用させていただきます。

図書館資料の
充実と公開

図書館施設・
設備の充実

本学の学術研究
成果の公開

貴重書の整理・
保存と研究促進